

ごみを捨てると、いくらかかるの？

ゴミを処理するには、多くの人の手と多額の費用がかかります。草加市では平成10年度に、約23.7億円もの経費がゴミ処理のために使われています。これは、新図書館建設（松原団地駅西口ビル内）に係る経費と同じぐらいの金額です。

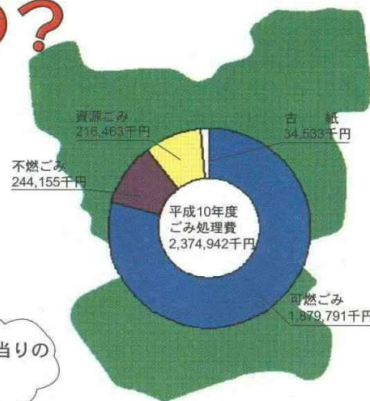
1年間の草加市ゴミ処理経費は平均的サラリーマンが、一生働いて稼ぐ金額のだいたい10倍！



1世帯当たりの年間経費（4人家族）41,640円

市民一人当たりの年間経費10,410円

人口 224,336人
世帯数 87,725世帯
（平成11年4月1日現在）



どうして
ゴミの減量？

ごみを燃やすときに出る ダイオキシンって？

環境問題に関して、「環境ホルモン」として作用する科学物質、その代表のダイオキシンがあります。特に、ダイオキシンは、ごみを焼却するときに出る物質として問題になっています。

環境庁の推定によれば、日本では、平均値として1日、体重1kg当たり0.3~3.5pg程度摂取していると考えられています。この摂取経路は、ほとんどが、食品からです。その理由としては、人間が食物連鎖の最上位にあるため、濃縮された科学物質の廃棄場所は、人体の脂肪分であるため、母乳のダイオキシン濃度が高い理由ともなっています。

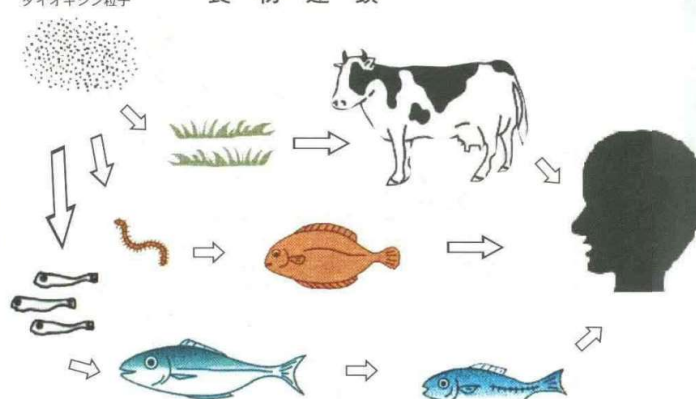
WPOの欧州地域事務局の専門家会議では、一生の間取り続けても健康に影響のない耐用1日摂取量について、基準値を体重1kg当たり1~4pgと決めました。

ダイオキシンについては、青酸カリの1000倍、あのサリンの数倍の毒性があるといわれています。

ダイオキシンは1段階ごとに100倍濃縮されています。人間の口に入るときは、数十万倍に濃縮されています。

ダイオキシン粒子

食物連鎖



ダイオキシンをあらわす単位pg（ピコグラム）pgは1,000,000,000,000g、1gが東京ドームの大きさだとするとゴルフボールぐらいの比率になります。

未来の子どもたちのためにも
ゴミを出さない努力から

ごみは、どんなところで処理されているの？

東埼玉資源環境組合



国の公害基準を大きく下回る立派な工場
ごみを焼却するときに出る熱を利用する発電施設（最大24,000kw）があります。

草加市の燃えるごみは、東埼玉資源環境組合で焼却されています。この施設は、草加市を始め、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町の5市1町の構成による一部事務組合で運営されています。

ごみが増えつづけると、こんな立派な処理施設を作らなければならなくなります！

古紙類の回収

市では、集団資源回収を行っている団体に奨励金を交付しています。そのほかに、資源ごみの日に回収してリサイクル業者に引き取ってもらっています。



可燃ごみ

カン・ビン



粗大ごみ



不燃・有害ごみ



草加市クリーンリサイクルセンター



カンやびんの分別をしています。カンは、アルミカンとスチールカンに、ビンは、色別に分けられます。その時にビンのキャップやそのたのごみを取り除く作業をほとんど手作業で行っています。

瀬崎中継基地



集められたごみを機械で破砕し、手作業で可燃ごみ、資源ごみ、有害ごみ、その他のごみ（埋立処分）に分類します。

集められたカン、ビン、不燃ごみの分別は大変な作業です。ごみが増えれば分別作業は、より大変になり処理費用も増えることになります。

私たちにできること

買う前によく考えて！
捨てる前にちょっと考えて！

①過剰包装は断わる。



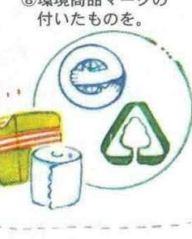
②ショッピングバックを持つ。



⑦使い捨て商品は買わない。



⑧環境商品マークの付いたものを。



③不要な物は買わない。



④自己処理をする。



⑤食べ物のつくりすぎ、買いすぎをしない。



⑥台所のごみは、水をよく切って。



可燃ごみとなるトレイやペットボトルなどは、回収ボックスのあるスーパーやコンビニに！！



配達される牛乳ビンは何回も繰り返し使われます！！

草加市からのお知らせ！



スプレー缶の破裂による清掃車の火災がおきています。スプレー缶は中身を空にして出しましょう。



平成 12 年 3 月 8 日

ごみ処理工場のビット

ごみ

**ごみを処分するにも
お金はかかります。**

**捨てる前に
ちょっと考えて!**

ごみを減らそう！

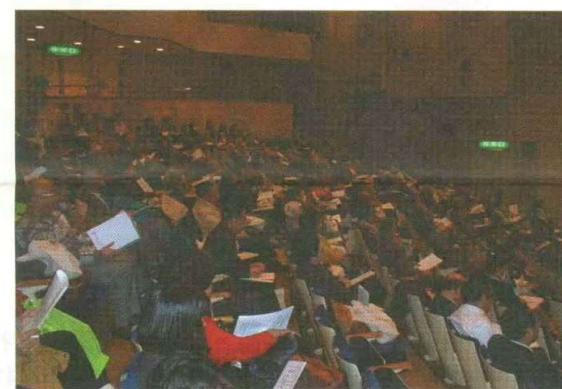


この情報誌は再生紙を使用しています。

わたしたちの団体は、全国に先駆けて豊橋市で行われていた630運動を参考に昭和55年から町会連合会を中心に、「ふれあいのあるまちクリーン草加」の推進に寄与することを目的に春・秋の美化運動を実施してきました。平成11年の秋で39回目を迎えました。

国、県、からの後援を受け「全国リサイクルの日シンポジウム」の開催を機に毎年2月に、クリーンふるさと推進協議会独自で「リサイクルシンポジウム」を開催してきました。

クリーンふるさと推進協議会では、毎年テーマを選び、そのテーマに沿った講演会やパネルディスカッションなどいろいろと思考をこらし平成11年度まで開催してきました。



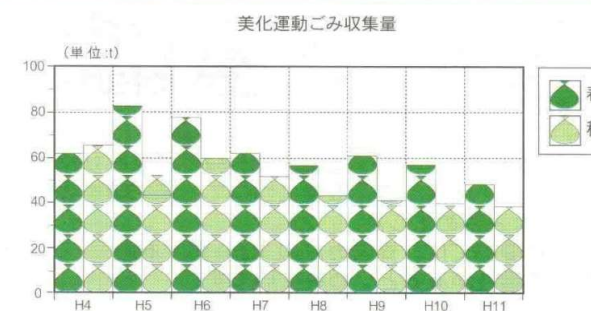
開催日	開催テーマ
平成8年2月	基調講演「地球環境問題と私たちの生活」 パネeldiscussion「これからのリサイクル・資材包装リサイクル法ってなに？」
平成9年2月	パネeldiscussion「リサイクルは誰がやる」
平成10年2月	パネeldiscussion「これからどうなるプラスチックの行方」
平成11年2月	パネeldiscussion「私たちの生活スタイルを考える」

平成12年春で40回を数えます。



美化運動風景

美化運動開始当初は、家庭内から出されたごみも見られましたが、毎年、回を重ねるごとに「まちをきれいに」という主旨を理解していただけるようになりしました。



情報誌発行にあたって
私たちは、毎年2月に「リサイクルシンポジウム」を
開催して参りましたが、より多くの市民のみなさんに、
ごみ問題に関心を持っていただきたいと思い情報誌を発
行することになりました。
ご意見、ご希望がありましたら、表紙問い合わせ先まで。